

倫理審査委員会 議事録

1. 日 時 平成26年10月27日（月）
2. 委 員 副院長、臨床研究部長、統括診療部長、事務部長、看護部長、薬剤科長
3. 課 題 リツキシマブを含む化学療法レジメンの投与順序変更による腫瘍崩壊症候群の予防効果に関する後ろ向き研究
（申請者） 薬務主任 津曲 恭一
4. 研究概要 リツキシマブを含むレジメンの場合、「腫瘍崩壊症候群診療（TLS）ガイドランス」に示される対策に加えリツキシマブ以外の抗腫瘍薬を先行投与しているが、TLS 発生の予防効果については不明であるため、TLS の発現状況、及び予防効果の実態を調査する。
5. 判 定 承 認

【議事録】

今回の申請は後ろ向き研究であり収集するデータには個人が特定されないよう配慮されていることから倫理審査委員会規程第9条第1項に規定する迅速審査の対象として、持ち回り審査とした。

研究の目的、実施計画の内容、倫理上の配慮において、特に問題となる事項は認められないため承認とする。

倫理審査委員会 議事録

1. 日 時 平成26年10月27日(月)
2. 委 員 副院長、臨床研究部長、統括診療部長、事務部長、看護部長、薬剤科長
3. 課 題 プロトンポンプインヒビター薬がメソトレキサートの排泄遅延に及ぼす影響に関する後ろ向き研究
(申請者) 薬務主任 津曲 恭一
4. 研究概要 メソトレキサートの有害事象の一つに骨髄抑制があり、その発現は血中濃度と関連し、排泄が遅延することにより発現頻度が増加することが知られている。2013年にMTXとの併用により排泄を遅延させる薬剤として、プロトンポンプインヒビター(以下PPI)が添付文書に記載されたが、その根拠は米国からの報告と実験結果によるものであり、高用量MTX投与時の日本人の報告はない。当院の症例から日本人におけるPPIの有無によるMTXの排泄遅延の実態を調査する
5. 判 定 承 認

【議事録】

今回の申請は後ろ向き研究であり収集するデータには個人が特定されないよう配慮されていることから倫理審査委員会規程第9条第1項に規定する迅速審査の対象として、持ち回り審査とした。

研究の目的、実施計画の内容、倫理上の配慮において、特に問題となる事項は認められないため承認とする。

倫理審査委員会 議事録

1. 日 時 平成26年10月27日（月）
2. 委 員 副院長、臨床研究部長、統括診療部長、事務部長、看護部長、薬剤科長
3. 課 題 血液透析患者の排便コントロールの実態
（申請者） 看護師 黒木 麻由
4. 研究概要 血液透析患者は複合的な要因により排便困難を訴える患者が多い。血液透析患者の下剤の活用状況を明らかにし、どのように患者が排便コントロールを行っているのかを調査する。
5. 判 定 承 認

【議事録】

今回の申請は研究期間の変更（H26.8.1～H26.9.30をH26.8.1～H27.3.31へ変更）であり研究計画の軽微な変更であることから倫理審査委員会規程第9条第1項に規定する迅速審査の対象として、持ち回り審査とした。

研究の目的、実施計画の内容、倫理上の配慮において、特に問題となる事項は認められないため承認とする。